

質疑応答

Q1 つばさクリニックでの現在のインフルエンザ、コロナの感染状況を教えて欲しい。

石川：インフルエンザ、コロナともに1日に1人、2人くらい。1週間で5人程度。インフルエンザの方が少ない。どちらも終了していると思う。そもそも、検査で陽性だから感染している、というものでもない。ウィルスが鼻腔にいただけ、とかウィルスの死骸が残っているだけ、という人もある。発熱がないのに検査を受けて、不必要な隔離を強いられるのは自分で自分の首を絞めるようなものだから、やめたほうがいい。

Q2 セロトニンが脳に影響を与えるということだが、セロトニンの活性化、リーキーガットの軽減、糖化の防止の方法について教えて欲しい。

松井医師

セロトニンは90%が腸で精製される。

リーキーガットの軽減のためには、腸内細菌を悪化させる食品を控えることが重要。

糖化の防止には小麦粉、砂糖、ヨーグルトなどの乳製品を控えることが大切。

Q3. 心を整える方法について教えて欲しい。

齊藤看護師

低血糖を防ぐといい。また血糖値が高いとストレスを発しやすいので、スタイレック（持続自己血糖測定機器）のようなものを用いてモニタリングするとよい。各種ビタミンの摂取も効果的である。

石川：空腹時血糖正常、ヘモグロビンA1C正常でも食後血糖値が250を超える人がいる。そのような場合、血糖値が80くらいになっただけでも手が震える等の低血糖症状が出ることもある。血糖値が急激に下がることが要因である。通常の健診ではこういう人は「異常なし」とされてしまうし、多くの医師がこの事実気づいていないので注意が必要である。

Q4. コロナワクチン被害者救済の申請の仕方を教えて欲しい。

神谷看護師：窓口は役所だが、担当者によって対応に大きな差がある。ワクチン接種から症状が出るまでの期間が空いてしまうと否認されてしまう、というのが悲しい現実である。そういった方は「この症状はワクチンとの因果関係を否定できない」という診断書や意見書を添えて提出することをお勧めする。

石川：そのような書類は当院で作成可能である。

Q5. コロナワクチンに含まれる有害物質、重金属を除去する方法はあるのか

石川：いわゆるスパイク蛋白や余分な抗体を完全に除去するのは不可能。後遺症患者はあちこちで炎症を起こしている事が多いが、その炎症を抑えるために、本日の栄養療法等を通じて地道に対処していくしかない。

松井医師：重金属の除去に関しては難しいのでよくわからない。

齊藤看護師：重金属という意味では歯の詰め物も要注意。昭和40年以前に生まれた人は、水銀が含有されているアマルガムが詰め込まれている可能性が高いから、一度歯医者さんに相談した方がよい。

Q6. 後遺症治療に有効な医療器具があるようだが、それらに対する評価を教えてください。

石川：直接的な効果があるものはないが、血流を促進することで症状を改善する効果が期待できる機器はあると思う。

Q7. 重曹とクエン酸の効果について教えてください。

石川：身体を弱アルカリ性にするという効果はあると思う。

神谷看護師：後遺症患者の間では効果がある人とない人がある。栄養療法も運動も大切だが、何よりも大事なのは「治る」と前向きな気持ちになることだと思う。患者の会の中でもそういう人は症状がよくなっている。

Q8. アメリカではロバートケネディ jr. が保健福祉長官になってワクチン行政等が大きく変わろうとしている。日本もその影響を受けて大きく変わると期待していたが今のところそうではない。大きく変えるような行動は起こさないのか。

石川：外圧で変われるものならもっと前に変わっていると思う。それでも前回の衆議院選挙では自公政権を少数与党に転落させたように、少しずつ変わってきている。今日の講演でもあったように、病気は医師に治してもらうのではなく、自分で治すという態度が必要だと思う。皆さん一人一人が「一隅を照らす光」になり、やがて「国を照らす光」になって欲しいと思っている。